様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月　５日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：基盤研究(A)
研究期間：2008　～　2012
課題番号：20243030
研究課題名（和文）
都市環境における生活公共性に関する比較社会学的研究
研究課題名（英文）
A Comparative Sociological Study on the Publicness in Ordinary Daily Life of Urban Environment
研究代表者
田中　重好（　TANAKA SHIGEYOSHI　）
名古屋大学・環境学研究科・教授
研究者番号：50155131

研究成果の概要（和文）：
「生活公共性」という新しい社会学的な概念を検討し、都市環境や都市空間の実証的な研究に援用可能であることを確認した。その概念を用いて、日本、中国、イタリアやドイツの都市空間の実証的な研究を行った。
公共性という概念は、実証的な国際比較研究において重要な鍵概念であるばかりではなく、危機にある社会学理論の今後の再建においても重要な概念であることを検討してきた。
本研究の研究成果は、『東アジアにおける公共性の変容』（慶応大学出版会、2010、日本語）、『地域から生まれる公共性』（ミネルヴァ書房、2010、日本語）、The Comparative Study of the Publicnee（中国社会科学出版社、2013、英語）、科学研究費報告書『都市環境における生活公共性の比較社会学的研究』としてまとめ、公刊した。とくに、我々としては、国際比較社会学の研究成果を英文で出版しえたことは、重要であったと考えている。
また、2012 年日本社会学会大会において「生活公共性と比較社会学」という特別セッションを海外から 6 名の研究者を招聘して開催し、研究報告をおこなった。本セッションの全体は、科学研究費報告書『都市環境における生活公共性の比較社会学的研究』に収録した。

研究成果の概要（英文）：
We discussed the new sociological concept, the public embedded in ordinary daily life, and make sure that this concept is useful for the empirical studies on urban environment and urban space. We actually study many case of urban space in Japan
, China, Italy and Germany.
The concept , the public embedded in ordinary daily life is not only the key term for empirical international comparative studies, but also critical key concept that play important role in the reconstruction process of sociological theory. We think that sociological theory in now in crisis and that we can find resolution through the discussion of the concept , the public embedded in ordinary daily life.
We published three books ; *The Transformation of the Publicness in East Asia* (Keio University Press, 2010, in Japanese), *The Publicness from Local Community* (Minelva Press, 2010, in Japanese), *The Comparative Study of the Publicness*, (Social Science Academic Press (China), 2013, in English), and Final report (*A Comparative Sociological Study on the Publicness in Ordinary Daily Life of Urban Environment*, 2013, Nagoya university, in Japanese,).
We hold special session titled *the Public Embedded in Ordinary Daily Life and ComparativeStudies* in the Japanese Sociological Association Annual Meeting at Sapporo in 2012, inviting 6 abroad scholars.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	7,200,000	2,160,000	9,360,000
2009 年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2010 年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
2011 年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
2012 年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
総　計	36,400,000	10,920,000	47,320,000

研究分野：社会学
科研費の分科・細目：社会科学・社会学
キーワード：公共性、比較社会学、生活公共性、都市環境、都市空間、社会学理論

１．研究開始当初の背景

背景としては、社会学の理論的な背景と、都市社会学の実証的な要請という背景がある。前者は、マクロな社会学理論の行きづまり、ミクロな社会学理論の限界という社会学理論の危機に対して、公共性概念を用いて、社会学理論の再建を目指した。

実証的な要請としては、急激に進むグローバル化のなかで、比較都市研究を行う必要であり、そのために、生活公共性という概念を用いて、日本、中国、西欧の都市環境、都市空間の比較社会学的な研究を行うことを目指した。

２．研究の目的

西欧、中国、日本社会における公共性のあり方を、とくに都市社会や生活のなかに埋め込まれた公共性に着目して、比較研究する。その生活や都市空間に埋め込まれた公共観念を研究するために、都市空間のつくられ方、社会活動、都市景観、社会福祉政策、環境、教育、ホームレス対策など具体的な場面に下りて、研究を進める。

さらに、公共性という概念を手掛かりに、危機にある社会学理論の再生の方途をさぐる。

以上の目的のために、海外での調査や海外の研究者との研究交流を推進する。

３．研究の方法

研究の方法の中心は、都市社会を中心とした、都市づくり、まちづくり、都市社会活動、都市景観、社会福祉政策、ホームレス対策などと言った具体的なテーマを取り上げ、公共性のありようを実証的に研究することにある。とくに、海外での実証研究を進め、日本との比較を進める。

それ以外に、文献的な研究、歴史的な資料の検討、海外の研究者との研究交流の推進を行う。

４．研究成果

研究発表としてさまざまな学会における研究報告を行ってきたが、その集大成として、2012 年日本社会学会大会において「生活公共性と比較社会学」という特別セッションを開催し、社会学会会員に報告をした。

ここで「公共性」として取り上げているのは、それぞれの社会の中で、生活のなかに深く根ざしている公共性のあり方を取り上げることから議論を出発させている。この意味では，この「公共性の比較社会学」においては、公共性という一つの定義を掲げて、それを物差しにして、各社会における公共性のあり方を比較しようとするものではない。

ここでは、早急に「理想の公共性とは何か、どうあるべきなのか」という問題を論じてはいない。しかし、そうした問題を意図的に回避しているとも、回避できているとも考えていない。むしろ重要なのは、その社会の人々の日常生活の中に根づいている公共性のあり方から議論を出発させていることである

そのため、日本社会には日本の公共性のあり方があり、中国には中国の公共性のあり方があると考えている。ここで注目しているのは、それぞれの社会のなかの「公共性」という言葉から、その社会のいかなる「現在の」「新しい」動きが取り出せるのかという点である。公共性という言葉を手掛かりに、それぞれの社会の今を問うている。

最後に，社会学の一般理論のなかで，公共性と正義との関連を論じている。ベックのいう第 2 の近代における公共性の特色は，(1) market に対立し (2) national なものに対立し (3) individual、individualization に対抗するものであることを指摘した上で、21 世紀の社会において、公共性と正義が重要であることを論じている。

研究成果は、主に出版物と学会などでの発表による。

公刊された主なものは、

1、『東アジアにおける公共性の変容』（慶応大学出版会、2010）
2、『地域から生まれる公共性』（ミネルヴァ書房、2010）、
3 、 The Comparative Study of the Publicness（中国社会科学出版社、2013）
4、科学研究費報告書『都市環境における生活公共性の比較社会学的研究』（名古屋大学、2013）である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　26 件）
① 友枝敏雄、リスク社会のおける若者の意識、教育と医学、査読無、第 705 号、2012、62-68
② 及川三郎、環境社会学にとって「被害」とはなにか、環境社会学研究、査読有、第 18 号、2012、5-26
③ 麦倉哲、危険な仕事、任務に誰が就くのか、現代の社会病理、査読無、第 27 号、2012、3-25
④ 田中重好、災害へのコミュニティ・アプローチ、名古屋大学社会学論集、第 32 号、2012、75-98
⑤ 中西典子、京都府与謝野町における障害者福祉と福祉ガバナンスに関する調査報告、立命館産業社会論集、査読無、第 74 号、2012、169-188
⑥ 熊田俊郎、人口減少社会の都市、関東都市学会年報、査読有、第 14 号、2012、2-4
⑦ 吉野英岐、東日本大震災を体験して、地域社会学会年報、査読有、第 24 集、2012、143-150
⑧ 友枝敏郎、公共哲学としての社会科学、井上俊ほか編『政治・権力・公共性』世界思想社、2011、259-266
⑨ 堀川三郎、近代都市の水辺と公共圏、関東都市学会年報、査読有、第 13 号、2011、50-59
⑩ 田中重好、生活公共性の展開へ、三田社会学、査読無、第 16 号、2011、253-277
⑪ 田中重好、縮小社会を問うことの意味、地域社会学会年報、査読有、第 23 集、5-17
⑫ SHIGEYOSHI TANAKA, How Should We Discuss the Publicness, 名古屋大学社会学論集、査読無、第 31 号、2011、151-194
⑬ 石井秀夫、街づくりと景観デザインの日英比較、帝京社会学、査読無、第 23 号、2011、47-119
⑭ 西山志保・石山博之、協働推進における NPO の自立支援、せたがや都市社会研究、査読無、第 3 号、2011、103-123
⑮ 西山志保、イギリス・ガバナンス型まちづくりと市民セクターの役割変化、三田社会学会。査読有、第 16 号、2011、25-36
⑯ 熊田俊郎、藤田都市論における権力概念、関東都市学会年報、査読有、第 13 号、2011、2-9
⑰ 熊田俊郎、中国都市の「世界都市化」をめぐる一考察、法学研究、査読無、第 84 巻第 6 号、2011、333-359
⑱ 堀川三郎、場所と空間の社会学、社会学評論、査読有、第 60 巻第 4 号、2010、517-534
⑲ 田中重好・朱安新、中国社会構造和社会調整機制的弱化（中文）、学習与探索、査読無、第 189 号、35-40
⑳ 田中重好、重層的なガバナンスを構想するための覚書、名古屋大学社会学論集、査読無、第 30 号、2010、21-38
㉑ 田中重好、河川の比較社会学にむけて、法学研究、査読無、第 83 巻第 2 号、2010
㉒ 中西典子、英国のコミュニティ・ケア改革とパートナーシップ政策、地域創成研究年報、査読無、第 5 号、121-145
㉓ 中西典子、英国における官民／公私関係の再構築とパートナーシップ政策の課題、立命館大学産業社会論集、査読無、第 46 巻第 1 号, 2010、19-46
㉔ 石井秀夫、街づくりと環境デザインの日英比較、帝京社会学、査読無、23 号、47-119
㉕ 西山志保、石井博之、協働推進における NPO の自立支援、せたがや都市社会研究、第 3 号、査読無、2010、42-54
㉖ 高岡文章、岡垣町プロジャクトの課題と展望、福岡女学院大学紀要、査読無、第 20 号、2010、67-82

〔学会発表〕（計　11 件）
① 友枝敏雄、社会理論の基礎としての公共性と正義、第 85 回日本社会学会大会、2012、札幌学院大学
② 折暁葉、中国村行政の公共サービスと村落公共性および公共ガバナンス産経との関連、第 85 回日本社会学会大会、2012、札幌学院大学
③ 張静、中国社会の「公」と「私」、日本社会学会大会、2012、札幌学院大学
④ 王進、中国社会の文脈において公私がいかに区別されるか、その社会政策への意味、第 85 回日本社会学会大会、2012、札幌学院大学
⑤ 田中重好、生活公共性と比較社会学、第 85 回日本社会学会大会、2012、札幌学院大学
⑥ 熊田俊郎、中国における都市計画と住民生活の変遷、第 85 回日本社会学会大会、2012、札幌学院大学
⑦ 田中重好、地域から生まれる公共性、西

日本社会学会、2010、福岡県立大学
⑧ 田中重好、共同性から公共性へ、三田社会学会、2010、慶応大学
⑨ 熊田俊郎、都市と権力：社会学の観点から、関東都市社会学会春季大会、2010、慶応大学
⑩ 長坂契那、明治期における外国人の日本国内旅行、関東都市学会例会、2010、東京市政調査会
⑪ 皆吉淳平、臓器移植の「公平性」と親族への優先提供、日本保健医療社会学会、2010、山口大学

〔図書〕（計　7 件）
① 藤田弘夫編著、『東アジアにおける公共性の変容』慶応大学出版会、2010、 p 413
② 田中重好、『地域から生まれる公共性』ミネルヴァ書房、2010、 p 303
③ SHIGEYOSHI TANAKA/ XIAYE ZHE, The Comparative Study of the Publicness, Social Science Academic Press(China), 2013, p350
④ 科学研究費報告書『都市環境における生活公共性の比較社会学的研究』2013,p429
⑤ 友枝敏雄ほか、『社会学ベーシックス　第9巻　政治・権力・公共性』世界思想社、2011、290
⑥ 麦倉哲ほか、『新しい公共と自治の現場』コモンズ、2011、380
⑦ 西山志保ほか、『分断社会と都市ガバナンス』日本経済評論社、2011.312

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0　件）

○取得状況（計　0 件）

〔その他〕
特になし

６．研究組織
(1)研究代表者
2008 年度～2009 年度途中
藤田弘夫（FUJITA HIROO）
慶応義塾大学文学部・教授
研究者番号：60156875

2009 年度～2012 年度
田中重好（TANAKA SHIGEYOSHI）
名古屋大学大学院環境学研究科・教授
研究者番号：50155131

(2)研究分担者
熊田俊郎（KUMADA TOSHIO）
駿河台大学法学部・教授
研究者番号：10195521

友枝　敏雄
大阪大学大学院人間科学研究科・教授
研究者番号：30126130